

～養殖魚を使ったレトルト等、新商品の開発～
熊本県海水養殖漁業協同組合（熊本県天草市）

目詰まりの現状

組合員所得の向上、経営の安定を図るため、組合自ら真空フィレ等生鮮加工品の製造・販売を行ってきたが、近年、産地間競争が激化し、相場の低調な推移や、売り上げ減少が顕著化。組合員の経営にさえ影響を与えており、組合として新商品の開発等新たな対策が求められるところである。

プロジェクトの概要

- 急速凍結機やレトルト釜を導入し、養殖ブリの頭等を利用したレトルト商品、消費期限が長いファストフィッシュ商品、養殖マダイの切身等急速冷凍商品の開発に取り組む。
- 量販店等の販売イベントに参加し、消費者ニーズの把握及び競争力のある商品アイテムの販売促進を行う。
- 香港、台湾を中心に東アジア諸国への輸出も含めた販促活動を行う。

取組による成果

- 養殖ブリのレトルト商品は、関西地区の販売業者や地元物産館、ネット販売業者等と新規取引を開始。自然派食品等、新たなニーズを開拓。
- 急速冷凍機を活用し、養殖マダイの切身等を地元学校給食に納入。
- 全国量販店と新規取引が始まり、組合員養殖マダイの買付量を倍増。
- ベトナム向けに養殖ブリ等の販路を新規開拓。

プロジェクトフロー

熊本の養殖業者

養殖ブリ・マダイ等

- ・養殖魚の生鮮加工メーカーが増加
- ・産地間競争の激化
- ・養殖魚市況の伸び悩み

- ・フィレ加工時に発生する未利用部を使ったレトルト商品の開発。
- ・生鮮加工品では不可能な、長い消費期限で高品質の加工商品を開発。

レトルト釜と急速凍結機を使った新商品の開発

養殖業者の収入が減少

量販店・百貨店
コンビニエンスストア
道の駅

県内・県外物産館
全国量販店
ネット販売
アジア圏へ輸出

販路拡大

ファストフィッシュ登録
県キャラクターの活用

急速凍結機



レトルト釜



新商品開発



(平成28年3月現在)